

# 「福岡教育大学との連携による研究プロジェクト」＜特別支援教育＞

モデル校 中央中学校校内全体研修会までの実践(11/12)

(特別支援教育の目的) 学校現場の児童生徒の実態や課題の把握及び最近の傾向分析を基に特別支援教育に関わる研究の在り方、具体的な実践、校内の支援体制作りなど、中長期的な研究プロジェクトとして充実させていく。

共同研究者・参加者

福岡教育大学 教職大学院 納富教授・西山教授  
宗像市教育委員会 正路指導主事  
田中教育連携コーディネーター  
中央中学校職員

## 中央中学校のこれまでの流れ

5月:3学年で「配慮を要する生徒」について確認作業・対象生徒の決定(A君とB君)

6月 特別支援コーディネーター、教務主任  
3学年担任で チェックシート及びサポート  
ヒントシートに記入 分析

7/2 対象生徒の観察(参加:西山・田中)  
福岡教育大学 西山教授による観察  
3学年会議で観察で気づいたことの報告  
○もう少し早い時期すなわち幼少期からの配  
慮をする必要があった生徒(3次支援)であるこ  
とが判明・中央中の先生方はよく努力されてい  
る。中学生になるまでに気づかれていなかった。

9/17 3学年会議  
福岡教育大学 納富教授 西山教授、田中参加  
対象生徒への今後の対応の仕方について助言  
3次支援の子であるがまだ間に合う。手だてがある。

11/12 校内全体研修会  
○3学年で実践してきたことを全職員に3学年生徒  
の事例をもとに説明  
○通常の学級には10人に1人の割合で特性を持  
ち配慮を要する生徒たちがいる。  
○1, 2学年の通常学級にいる配慮を要する生徒  
について選び出す方法の説明  
○チェックシートやサポートヒントシートの使い方  
個別の教育支援計画や個別の指導計画作成の  
意義について説明  
○多くの教師の目で見守ることが必要

「すべての気になる子」に早期発見、早期対応は必要であるが、ここでは特に発達に課題のある生徒への支援過程についてまとめています。



○西村校長先生 始めの挨拶  
特別支援教育は全教師で取り組むことに意義がある。今日は大学から専門の先生方にお出でいただいているので、専門的なアドバイスを頂きながら学校として生徒をリストアップし適切で有効な支援活動ができるようにしていきたい。

会議次第 司会は佐々木主幹教諭  
1 学校長挨拶  
2 講師紹介  
3 3学年の事例研究・資料読み  
4 納富教授・西山教授の講話  
5 特別支援コーディネーターから  
6 終わりの挨拶 佐々木主幹  
※校長先生は本研修会を学校の特別支援教育の組織体制を確立する第一歩にすると考えておられました。

資料読みの後、学級担任から対象生徒の現在の様子の報告 二人とも3次支援レベルの生徒であるが現在は落ち着いている。  
①A君: 昼休み教室で過ごすことができるようになった。安心できる級友と共にいる。SCと情報交換を密にして情報を共有するようになっている。  
②B君: 父親との連絡を密にするようになっている。定期的に通院し薬を服用して安定してきた。

福岡教育大学 納富先生からの講話  
①通常の学級には特別な配慮を要する子ども達が3層で存在している。  
3次支援のレベルまで行かないように早期発見早期介入が大事である。  
深刻さのレベルによる3層構造での支援を考える必要がある。

一次支援 (全ての子どもが対象 クラスを全体的にたがやす。)

< 温かい風土づくり・学習規律の提示 >

二次支援 (一部の子どもが対象)

< 行き渋りへの対応 学習困難の克服 >

三次支援 (特別な子ども)

< 別室登校の支援 被虐待児の対応 >

②配慮を要する生徒に早期に気づくことが大事、気づくためには自閉症の子どもの特徴を理解しておくことよい。自閉症の子どもに見られる特徴を参考に全ての子ども達を見ていくと特性のある子に気づくことができる。



教育大学 西山先生からの講話  
学校全体に特別支援教育の組織体制を確立することが必要  
①学校全体のグランドルールを作り(例えば学習規律)全校で共通理解する。  
②学校全体でそのルールを活用し学びのユニバーサルデザインの授業を行う。  
③校内委員会を中心に支援体制をつくる。定期的に開催し情報交換を密にする。  
④校内委員会が全体で開催できないときは学年単位で開催することも考えたい。  
⑤校内では3次支援の子どもを作らないように組織として同じ動きができるようにしておきたい。



先生方は開始時刻前に全員集合し講師の先生方を迎えました。研修中も大変熱心に講話に耳を傾けていました。

## <先生方の感想>

○クラスに思いあたる生徒がいるのでぜひお二人の先生方に相談したいです。  
○配慮を要する子どもへの接し方がよくわかりました。  
○講話の内容はいろいろと腑に落ちることがありました。

特性のある子どもへの支援のこつ(先生方からの助言)

- ①その子の苦手なことにアプローチしない。
- ②叱ることはやめる。
- ③見たことをよく覚えている子どもが多い。(視覚優位) 視覚的な掲示物を作成し予告をきちんとしていく。
- ④限定して簡潔に言う。わかりやすく説明する。  
シンプル クリア ビジュアル
- ⑥ 成功体験を増やしていく。まず、いいところを引き出すようにしていくときさまざまなトラブルが減る。

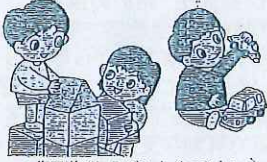


サポートヒントシートを使う際には自閉症スペクトラムのお子さんであるということが有効活用につながる。つまり、「配慮を要する子ども」に気づくには下記の自閉症スペクトラムの子どもの特性を理解しておき、もしかしたらそうかもしれない、と気づいてあげることがポイントとなる。(納富先生・西山先生からのアドバイス)

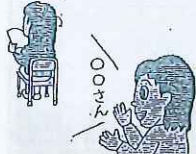
Q.2 自閉症の子どもには、どのような特徴が見られますか

自閉症の子どもの特徴は、以下のような行動として現れることがあります。このような行動は、知的障害等の子どもたちにも見られることがあり、これらの行動のうちいくつかが見られるからといって、必ずしも自閉症であるとは限りません。

他人との社会的関係の形成の困難さ

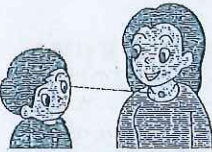


集団遊びに入ることができない



名前を呼ばれても振り向かない

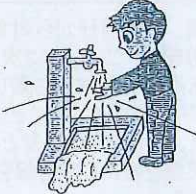
興味や関心が狭く、特定のものにこだわること



特定の部分にだけ意識がいき、周囲には目が向かない(シングルフォーカス)



同じ服や靴等を好み、替えることに抵抗がある。



水遊びなど、特定のものと過剰なほどの興味を示す



よく知っている人でも、いつもと違う状況(場所や服装など)で会うと、普段と違う振舞いをする

Q.3 高機能自閉症やアスペルガー症候群の子どもには、どのような特徴が見られますか

Q.2に挙げた特徴は、高機能自閉症やアスペルガー症候群の子どもでは、次のような行動として現れることがあります。

他人との社会的関係の形成の困難さ

他人とのやりとりが苦手です。友達付き合いをしたり、人の気持ちを理解したりすることが苦手で、相手の気持ちを考えていないと受けとめられるような言動が見られます。



他の人に共感することが難しい



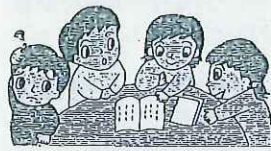
態度や表情から他の人の気持ちを理解することが難しい

言葉の発達の遅れ

特に言葉の発達に遅れが目立たない場合でも、コミュニケーション面で困難を伴うことがあります。特に、話し言葉の使用や理解に課題があり、通常は用いないような独特の比喩を使ったり、言葉を字義どおりに受け取ったりすること等が見られます。



含みのある言葉の意味に気がかず、表面的に受け止めてしまう



話し合いに参加することが苦手である

言葉の発達の遅れ



同じ言葉を反響的に繰り返す



人の手を取って要求等を伝える

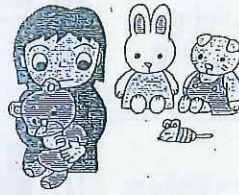
その他(感覚のアンバランス等)



食べ物や飲み物の好き嫌いが激しく、特定のものしか受け付けられない



特定の音が極端に苦手である



特定の感触をととても好む



シャワーを極端に嫌がるなど、

興味や関心が狭く、特定のものにこだわること

活動や興味が特定のものに限定されやすく、文字や数字、商標名、パターン的に配列されたものに必要以上に関心が向くことがあります。そのため、特定のことに限っては大人顔負けの知識を持っていることがあります。

また、決まったやり方ができなかつたり予定どおりにことが進まなかつたりすると、融通を利かせることがとても難しいことがあります。目の前にないものや事柄を考えたり、推測したりすることが難しく、ごっこ遊びのように見立てて遊ぶことも苦手なことがあります。



とても得意なことがある一方で、極端に苦手なものがある



特定のものに集中し、「自分だけの知識世界」を持っている



いつも同じように整理されていないと気がすまない



ごっこ遊び等、見立てたり想像したりして遊ぶことが苦手である

その他

多くの子どもたちが、耳から入ってくる情報の短期記憶が得意ではないようです。また、ものごとを関連付けたり、順序立てて受け入れたりすることが困難なため、一連の行動に見通しを持ちにくく、一度覚えたことを応用することに困難が見られます。また、体の動きがぎこちなく、運動等が苦手な子どもも多いようです。



聞いて理解することが苦手である



体の動きがぎこちない



「福岡教育大学との連携による研究プロジェクト」＜外国語活動＞の報告

モデル校(赤間小学校の3回目の授業から 11/19 )

＜目的＞外国語活動における書き言葉の体験を促すタスク活動の企画検討実施

福岡教育大学の留学生さん5人が、赤間小学校の5年生4クラスの外国語活動の授業にゲストとして来てくれることになりました。

児童達は、これまでに授業で、実際に外国の方と会話することを考えて練習をしてきました。来校がいよいよ本決まりになり、児童はお迎える気持ちが高まり意欲充分です。

子ども達は様々なことを考え次のような準備をしました。

- ①初めにどんな挨拶をしたらいいのだろうか。
- ②挨拶をした後はどんな会話をしたらいいのだろうか。会話が長くようにするにはどうすればいいか。
- ③名札を英語で書いたらいいのではないだろうか。
- ④名札だけでなく、自分の自己紹介のために手作りの名刺を作って渡したらどうだろうか。

これまで外国語活動の授業で習ったことを総動員して、会話の練習、名札や名刺の作製に力を入れました。名刺は一人5～6枚程作製しました。



5人の留学生さんが教室に入ると子ども達は満面の笑みと大きな拍手でお迎えしました。しかしうまく会話ができるかを考えて緊張している様子が伺えました。後で解かりましたが、実は日本の小学校に入るのが初めての留学生さんもいて、とてもドキドキしていたのだそうです。



リコーダーで歓迎演奏です。(曲目:花は咲く) みんな一生懸命です。何とか二重奏になり上手に調和が取れた演奏ができました。心を込めたあたたかい演奏に緊張していた留学生さんにも笑顔が広がりました。

いよいよ各班に留学生さんが入ります。ドキドキしながらも挨拶を済まし手作りの名刺を両手で渡してその流れで握手をします。なかなか上手にできています。



HRTの出田先生から「今日は外国からのお客様でうれしいですね。これまで練習してきたことを生かしましょう。」うまく通じるといいですね。先生からもう一度コミュニケーションのとり方の復習とアドバイスがありました。緊張しても、会話の4つのポイント、ジェスチャー・アイコンタクト・クリアボイス・スマイルを忘れずにね。



ALTのシタウラ先生は留学生さんとの会話を児童の前でデモンストレーションしながら名前や出身国を尋ねます。子ども達だけでなく留学生さんも緊張気味でしたがうまく和らげてくれました。

だんだん慣れてきて身振りも入った会話をする児童。笑顔と、アイコンタクトとはっきりと聞こえる声で、ジェスチャーもつけて会話のポイント4つができていてとても上手です！



教育大学中島先生から:今、ちょうど時期的にアジア圏の留学生だけで英語圏の留学生を参加させることができなかったことが残念でした。次の機会にはうまくバランスをとるようにしたいです。  
(中島先生の心配は全く大丈夫でした。児童はそのことを気にしている様子は全くなく、外国からのお客様が来てうれしいという気持ちを体中で表していました。)



中国出身のレイセイさん(左)とソイさん(右)を囲んで会話をする児童  
名刺は両手で丁寧に渡す  
会話は笑顔で相手の目を見てうなずきながら・・・と練習どおりにがんばっています。



手作りの名刺が足りなくなった児童  
急いで名刺を作製しています。とても上手に自分の名前を英語で書いていました。次に班に回ってくる留学生さんを待つわずかな時間を生かして作製しています。留学生さんに、ぜひ自分で書いた名刺を渡したいという思いがはじけます。

班に留学生さんがいない順番の時がとても有意義でした。児童だけで練習をしています。遊ぶ班は一つもなくひたすら練習をしています。自分たちで留学生さんを想定して、スムーズに会話ができるように練習、名刺の渡し方、握手の仕方、質問事項の最終検討をしています。しかも楽しそうに練習しています。  
(中島先生からは自分達で練習しているこの時間がとても大切で有意義だと言っていました。)

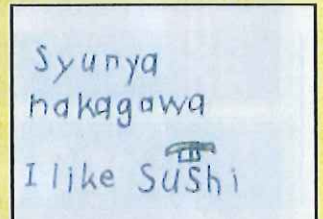
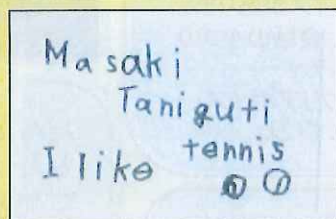
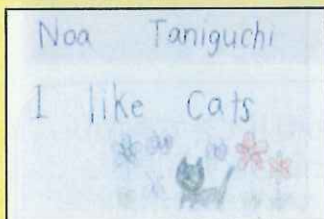


韓国から来たジンさんに今日の感想を聞きました。  
すべて英語だったので教育大学の  
中島先生に通訳していただきました。



今日の感想を突然尋ねられた児童:戸惑うことなく素直な感想を笑顔で述べました。「初めはうまく英語が通じるか不安だったけど通じたのでうれしかったです。ぜひまた来ていただきたいです。」

今日は私達にとっても貴重な体験でした。ありがとう。機会があればぜひまた来たいです。



児童手作りの名刺:英文字を書く必然性のある流れの中での名刺作り。児童は一生懸命、絵を入れてもいいという教師のアドバイスを生かして作製しました。英文字を書きたいという気持ちが充分高まっているので辞書を引ながら一生懸命に書いています。初めてのアルファベットなのでミスがあってもあえて厳しく直さず通じればいいという考え方です。

今後の流れ:留学生さんに年賀状をかき実際に投函します。留学生さんからお返事をビデオレターでもらいます。その後3月のお楽しみ会に留学生さんをご招待します。必然性のある流れの中で必然性のあるコミュニケーションをしていきます。